

# 終了事業 インド 新型コロナウイルス感染症緊急支援事業

— 就学期の児童の不足する栄養素を補い、学校閉鎖で失われた学びを補う —



活動地域: インド ジャールカンド州の1,000村  
事業期間: 2021年8月～2021年12月 (5か月)  
事業規模: 3,433千円(総事業費: 1.4億ドル)  
主な支援者: 支援組織、個人

1,000 村

コミュニティ学習センターを設立した村の数

2,000 名

補修を担当するボランティアの数

4 か月

栄養補助食品を配布した期間



## 課題

インドでは、新型コロナウイルス感染拡大を受け、学校閉鎖が長期に及び、就学児童は学校で提供される栄養価の高い昼食や対面での学習機会を失いました。とりわけ、育ち盛りの低・中学年にあたる6歳から10歳の児童の、タンパク質や鉄分の圧倒的不足をもたらしました。また、現地政府の調査によると、コロナ禍により生計が悪化し食事の摂取を減らすことを余儀なくされた家庭も少なくなく、ジャールカンド州は、栄養不良の子どもの割合と貧血の女性と女子が最も高い5州の一つに数えられました。さらに、82%の児童が過去に学んだ国語と算数の能力が失われたと報告されるなど、学習面での影響も深刻です。同州では、独自のアプリを導入し自宅で学べる教材をダウンロードできる措置をとったものの、CAREの調査では、親の携帯を使ってオンライン教育にアクセスできる児童は29%以下という結果でした。

## 活動内容

本事業では、学校閉鎖期間中、学校運営委員会を通じて栄養補助食品を配布。具体的には、学校が提供している固定食品で不足している栄養素(タンパク質や鉄分)を補い、かつ保存できる食品(ピーナッツ、ヤシ糖、米のポン菓子等)が含まれます。地元のヘルスワーカーとも連携し、児童の健診と、手洗い指導など感染予防につながる適切な行動についての説明会を定期的に開催しました。さらに、学習面では、各村にコミュニティ学習センターを設置。センターの運営にかかる研修を教師に対して行うとともに、最低限の教育の資格を満たすボランティアを各村2名ずつ育成し、ボランティアによる児童への補習を行いました。各センターには、学習セット(物語カード、言葉カード、絵札、数字カードや文具)と自習用の国語と算数のワークシートを提供したほか、保護者を対象に、休校中に子どもが示す不安や家庭内暴力のリスクについて説明するとともに、子どもの情緒や栄養ニーズに関する意識啓発も行いました。

イメージ写真



コミュニティ学習センターでは、誰もが安心安全に利用できるように、新型コロナウイルスの感染の予防と同時に、性的搾取・虐待・ハラスメントからの保護に対する理解促進と実践について徹底しました。具体的には、部屋の換気、児童とボランティアへのマスクの提供、体温計の設置、手指消毒液や石鹸の配置、20人以下での集まりを励行。目につきやすい場所に安全ガイドラインも展示しました。また、苦情受付箱の設置ほか、事業関係者(事業スタッフ、学校運営委員、ボランティア、教師、ヘルスボランティア等)を対象とした保護についての啓発活動を実施。事業チームが事前告知なしに同センターを訪問するなど、在席児童に及ぶリスクの把握と未然防止にも努めました。